

## 「ベビーシッター育児支援事業割引券」のご案内

「ベビーシッター育児支援割引券」を使用してベビーシッターサービスを利用すると、1日の利用料金から1家庭につき1,700円の割引が受けられます。利用を希望される方は、申込書等を男女共同参画推進室まで提出ください。

- |                       |   |
|-----------------------|---|
| <b>利用対象者</b>          | 本学に在職する教職員（週30時間以上勤務の非常勤含む）、男女を問いません<br>※配偶者も就労していることが必要です。 |
| <b>対象となるお子様</b>       | 0歳～小学校3年生までの児童  |
| <b>対象となる内容</b>        | 就労時に、ベビーシッターサービスを受ける場合                                      |
| <b>利用できるベビーシッター会社</b> | マミーズファミリー   |



男女共同参画推進室  
「しあわせ文庫」  
のお知らせ

男女共同参画推進室では、男女共同参画や育児、介護、ワーク・ライフ・バランス、キャリア支援関連の図書を貸し出します。教職員の方は、メール [sankaku@kochi-u.ac.jp](mailto:sankaku@kochi-u.ac.jp) にご利用希望の図書をお知らせ頂きましたら、学内便で貸出・返却の対応を致します。

**対象者**：学内の教職員・学生 **貸出期間**：2週間



## これから開催するイベント（予定）

- 9月29日（日）9時30分～9時55分 FMこうち THE こうちユニバーシティ CLUB  
岩佐和幸教授（人文学部）と男女共同参画推進室が出演します
- 11月6日（水）平成25年度 ワーク・ライフ・バランス講演会「男性も！女性も！がんばりすぎない子育て」  
講師 増田かおり氏（株式会社 マミーズファミリー 代表取締役）  
時間 13時00分～14時00分 会場 朝倉キャンパス 総合研究棟2階 プレゼンテーションルーム
- 12月13日（金）第四回 四国女性研究者フォーラム 主催：高知大学
- 12月20日（金）ロールモデル講演会「私の研究と経歴―「農と食の政治経済学」の若手研究者として―」  
講師 関根 佳恵先生（立教大学 経済学部経済政策学科 助教）  
[2003年 高知大学農学部卒。京都大学大学院経済学研究科修了]  
時間 13時30分～14時40分  
会場 朝倉キャンパス メディアの森2階 コラボレーションルーム  
物部キャンパス 図書館農学部1階 コラボレーションルーム  
岡豊キャンパス 管理棟3階 コラボレーションルーム



平成25年9月 発行 高知大学 男女共同参画推進室  
〒780-8520 高知市曙町二丁目5番1号 国立大学法人 高知大学 総合研究棟3階  
TEL 088-888-8022 FAX 088-888-8023 MAIL [sankaku@kochi-u.ac.jp](mailto:sankaku@kochi-u.ac.jp)



高知大学男女共同参画推進室 しあわせぶんたん

# NEWS LETTER

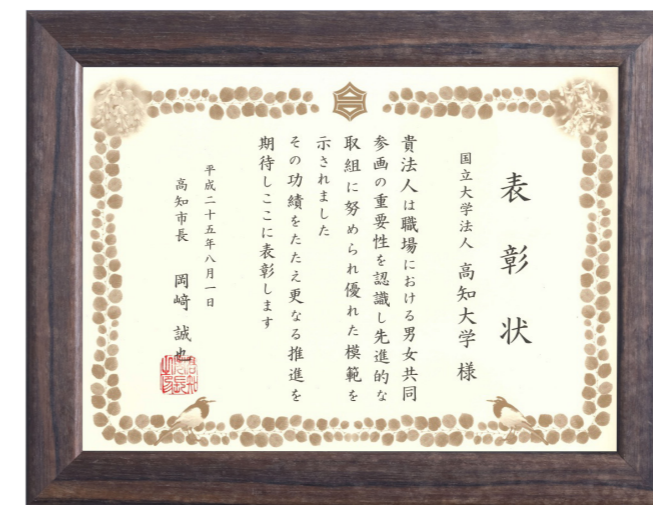
2013.09  
Vol.2



## 高知大学が平成25年度「高知市男女共同参画企業表彰」を受賞しました！

平成25年8月1日に、高知大学は「高知市男女共同参画企業表彰」として、高知市から表彰されました。これは、本学が男女共同参画に関して、以下の取組を積極的実施している事業者として評価されたものです。

- 【1】 女性の職域拡大や登用などを積極的に行っている
- 【2】 仕事と家庭生活の両立を支援している
- 【3】 セクハラ防止や男女の人権に配慮した職場環境づくりを行っている
- 【4】 男女の固定的な役割分担意識を是正する職場環境づくりを行っている
- 【5】 男女が共同して参画できる職場環境づくりを行っている



表彰状を授与される櫻井克年理事（総務担当）・副学長

## マスコットキャラクターの愛称が『SANKAくん』に決定しました！

平成25年4月3日～30日に、ホームページ上で男女共同参画推進室「しあわせぶんたん」のマスコットキャラクターの愛称募集を行ったところ、31件のアイデアが寄せられました。素晴らしいアイデアがたくさん寄せられ、選ぶことが本当に難しかったのですが、慎重に審査させていただいた結果、高知市在住の中学1年生・島内恵実さんの「SANKAくん」に決定しました。採用させていただいた島内恵実さんには、感謝状と記念品を贈呈しました。これからも、イキイキ光線をふりまく「SANKAくん」を、どうぞよろしくお願ひします。



## 日本学術振興会特別研究員申請書の書き方セミナーの実施

平成 25 年 5 月 15 日に、日本学術振興会特別研究員申請書の書き方セミナーを研究職キャリア支援の一環として実施しました。小槻日吉三研究担当理事による挨拶では、日本学術振興会特別研究員に採択されることは経済的に保障されるだけでなく、研究者としてのキャリアに有意義であることが強調されました。次に、研究国際部研究推進課研究推進係の吉本昌代係員から日本学術振興会特別研究員制度の説明がありました。特別研究員制度は、優れた研究能力を有し、大学その他の研究機関で研究に専念することを希望する者を採用し、研究奨励金を支給する取組です。

申請書の書き方については、理学部の田部井隆雄教授から講演がありました。田部井教授は、「申請書の書き方」には秘策があるわけではない、自分の実力以上の申請書を書くことはできないと言及しました。ただし、書き方が悪ければ 80% の実力が 50% になってしまうので、書き方に配慮する必要があり、そのための留意点が紹介されました。学生からは、「実力以上



のことを書こうとしていたので、今日の話聞いてよかったです」という感想がありました。日頃の研究を積み重ねて成果を出すことが大事であることを確認しました。申請書を審査する側がどのような点に着目しているかという貴重な情報を提供してもらいました。

## 仕事と介護の両立セミナーの開催

平成 25 年 6 月 25 日に「仕事と介護の両立セミナー」を開催しました。男女共同参画推進室の廣瀬淳一室長による挨拶では、介護の負担は誰にでも起こることなので、介護についての情報を知っておく必要があるというセミナーの趣旨説明がありました。次に、男女共同参画推進室の小島優子特任助教が、「高知大学における仕事と介護の両立～現状と課題」について説明しました。高知大学職員における介護の現状としては、50 代では 8 割が将来の家族について不安を抱えていること、介護経験があるのは 50 代では 4 人に 1 人であることを示しました。高知市介護保険課の入木栄一氏には「高知市で利用できる介護制度とサービス」について講演して頂きました。介護保険制度の申請方法や、利用できるサービス、および介護保険以外に高知市で実施しているサービスが紹介されました。その他に認知症や高齢者虐待の問題について相談対応者の立場からお話がありました。入木氏からは、介護のことで困った場合には、さまざまな介護相談コーナーに相談するよう、呼びかけがありました。

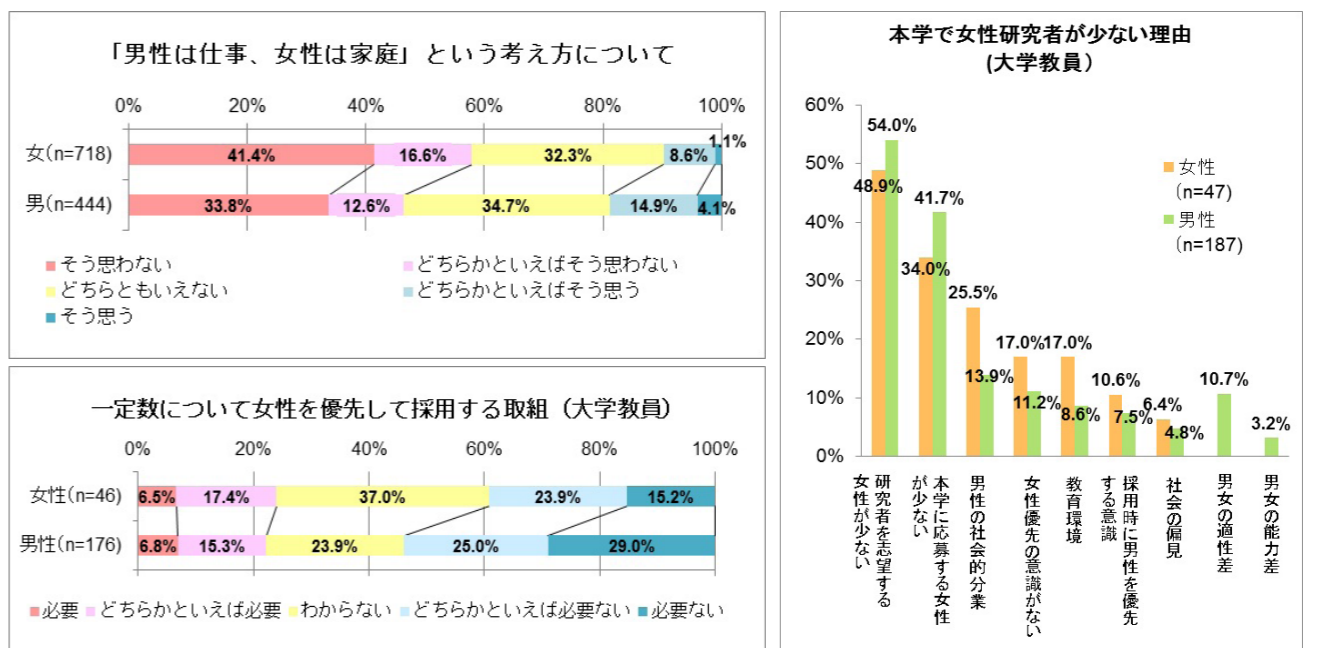
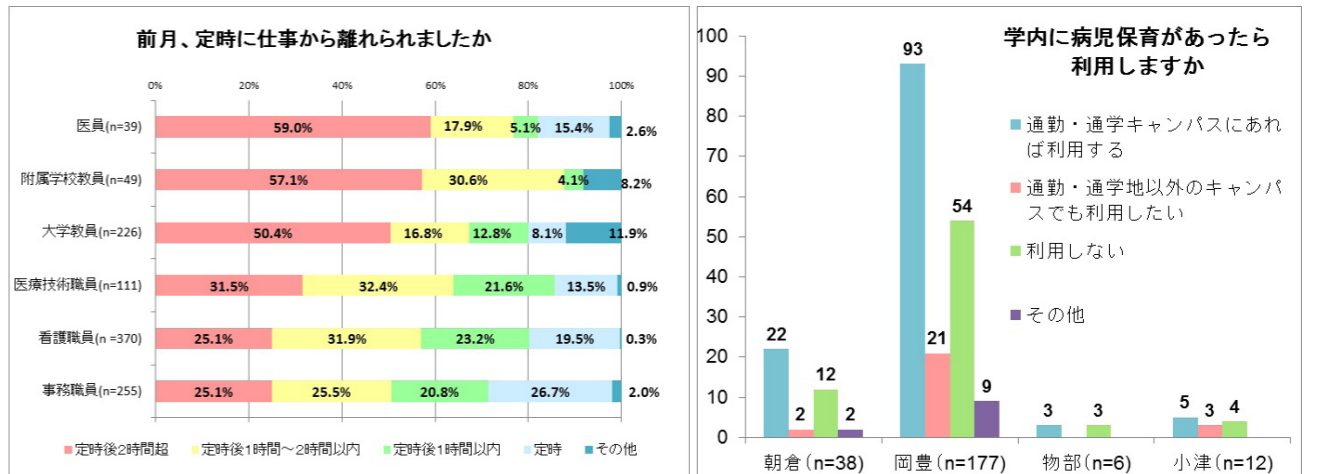


このセミナーの録画 DVD 貸出、配布資料をご希望の方は男女共同参画推進室までご連絡ください。

## 「高知大学における男女共同参画に関する意識調査」の概要

平成 25 年 2 月 12 日～ 28 日に、調査を実施しました。対象者は、大学教員、附属学校教員、医療技術職員、看護職員、医員、事務職員、大学院生の計 3,348 人でした。1,225 人（女性 759 人、男性 464 人、無回答 2 人）から回答を得ました。回答率は、36.6% でした。

	女				男				就業日	就業日以外
	人数	平均年齢	既婚率	離別・死別率	人数	平均年齢	既婚率	離別・死別率		
大学教員	47	42.3	42.6%	10.6%	193	47.2	84.5%	2.6%	家事時間 女性 1時間47分 男性 34分	3時間9分 1時間6分
医員	23	32.1	56.5%	0%	18	32.8	66.7%	0%	育児時間 (未就学児) 女性 3時間26分 男性 1時間10分	9時間2分 4時間48分
附属学校教員	33	43.2	66.7%	3.0%	20	41.3	85.0%	5.0%	介護時間 (対象者) 女性 2時間24分 男性 59分	3時間43分 1時間44分
看護職員	385	38.2	46.8%	6.0%	26	31.5	46.2%	0%		
医療技術職員	60	35	35.0%	0%	61	37.4	59.0%	5.0%		
事務職員	156	42.3	58.3%	6%	106	47	74.5%	2%		
大学院生	18	28.7	22.2%	0%	10	26.6	30.0%	10.0%		



## 研究支援員利用者へのインタビュー



研究支援員制度を利用して、仕事やプライベートでどのような点が変わりましたか？



医学部 助教 大浦麻絵 先生

子どもを出産してからは、大学の研究室にいられる時間が非常に限られるようになりました。前年度から研究支援員制度を利用させていただいておりますが、利用前と比較すると仕事の効率は間違いなく上がっております。仕事も効率化せざるを得ないため、与せずとも自身のレベルアップにも繋がっています。支援員の方も私の説明が足りない点などもキチンと聞き返してください方なので、共通認識の構築や小さなチームが出来つつあると実感しています。

プライベートですが、学振研究員の時に実は2度も出産・育児休暇を頂きました。その時は自宅でも研究運営できると今考えれば少し甘く考えていましたが、現在の私の状況では運営はとても厳しいと判断し、今は思い切って仕事とプライベートは独立させています。時間の制限が厳しい中、支援員の方が良いペースメーカーとなってくれるので、スケジュールが順調に進むことが多くなりました。その結果、家族との時間と仕事のライフ・ワーク・バランスが、本当に徐々にではありますが取れつつあります。この制度の恩恵の一つと感謝しております。

研究支援員制度は、今後どのように本格的に制度化していくのがよいと思いますか？



今後も優秀な方に支援員になって頂くためには、TAやRAのようにその後のキャリア・アップに繋げることは重要な課題であるように思います。また子どもの急な発熱が生じ、あやうく支援員の方に無駄足を踏ませてしまいそうなことがありました。難しい面もあるかと思いますが徐々にそのような場合の対応法などを整えていただければと思います。また、支援を受ける側の勝手な意見ですが、派遣期間が半年間というのは少し短く感じます。仕事を教えるのも、学ぶのも、また慣れるのもお互いどうしても時間も労力もかかるため、もう少し長い期間での派遣になっていければと思います。



これから研究者を目指す方へのメッセージをお願いします

基本的なことではあると思いますが、自分の興味に対し知的好奇心を持ち続けること、どのような形であっても形にすることを心がけることがやはり大切だと思います。また、人の繋がりも研究を豊かにしてくれると感じています。最後は自分で決めた道を信じて進んでいくしかないなので、精神的な強さも必要となってくるかと思います。私も挑戦中です。

## 女子学生と女性研究者の交流会の開催報告



「女子学生と女性研究者の交流会」を3キャンパスで開催しました。この交流会は、男女共同参画推進室が平成25年3月に発行した『高知大学女性研究者ロールモデル集 Vita-min vol.1』が好評であったことから、執筆者の女性研究者と女子学生が直接話をする機会を設けるために実施したものです。6月12日に開催した朝倉キャンパスでは18名、6月17日開催の岡豊キャンパスでは9名、6月18日開催の物部キャンパスでは14名が参加しました。

研究者を目指す女子学生からは、授業の履修の仕方や大学院進学、就職先の見つけ方などの質問が女性研究者へ寄せられました。女性研究者からは、自身の経験を踏まえた上で学生へのアドバイスがなされました。女性研究者が、育児と仕事をどのように両立してきたかという話や、大学院進学や就職と妊娠・出産・育児の時期をどのように設定するかという話については、女子学生も興味深く話を聞き入っていました。

岡豊キャンパス



朝倉キャンパス

物部キャンパス

## 授乳室・搾乳室・休憩室を必要とされる方へ

男女共同参画  
支援ステーション

Vita-min  
The Dream We Share by Our Challenging Mind

男女共同参画推進室内の男女共同参画支援ステーション Vita-min は、授乳室・搾乳室を必要とされる方、妊娠中・育児中の女性で休憩室を必要とされる方に休憩スペースを提供いたします。ご利用を希望される方は、男女共同参画推進室までご連絡ください。

**対象者** 学内の女性教職員・学生で、妊娠中・育児中の方  
**利用時間** 9:00～17:00 (月～金)  
**利用場所** 朝倉キャンパス 総合研究棟3棟 男女共同参画推進室内 Vita-min  
**担当** 男女共同参画支援ステーション 小島 (888-8021)



## 男女共同参画支援ステーション相談コーナーのお知らせ

男女共同参画支援ステーションでは、育児・介護と仕事の両立相談、研究職キャリア相談を受け付けています。ご相談のある方は、メール yukojima@kochi-u.ac.jp (担当: 小島) までご連絡ください。

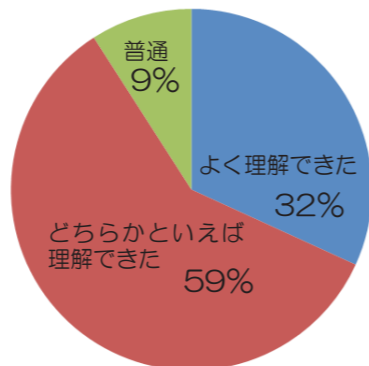


## 「男女共同参画社会ってなあに？」パネル展の開催

毎年6月23日から29日までの1週間は、「男女共同参画週間」です。男女共同参画推進室では、平成25年6月3日～6月28日に、男女共同参画週間に先駆けてパネル展示「男女共同参画社会ってなあに？」を開催いたしました。こうち男女共同参画センターソーレの協力を得て、所蔵パネルを総合研究棟1階ディスプレイホールに展示しました。

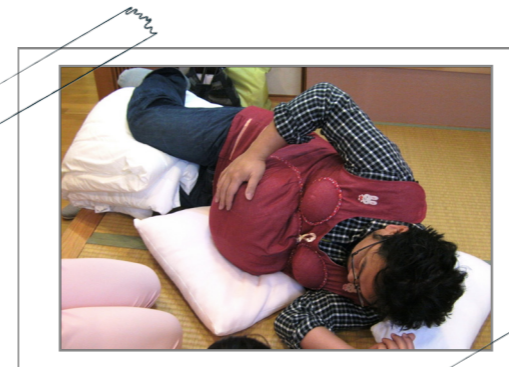
6月19日に教育学部の森田美佐准教授の授業「家族社会学」では、受講学生がパネル展を見学しました。受講学生アンケート（女子学生17名、男子学生5名）の結果からは、「よく理解できた」32%、「どちらかといえば理解できた」59%と、9割の学生がパネル展を通して男女共同参画についての理解を深めていました。

### 男女共同参画社会について理解が深まりましたか？

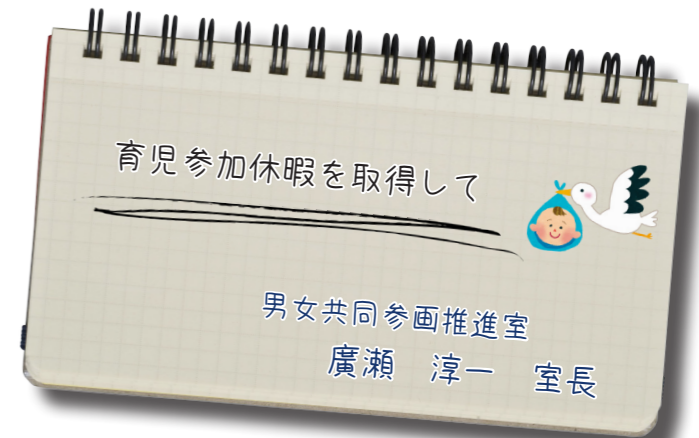


## オープンキャンパスでポスター展示を行いました

8月3・4日のオープンキャンパスでは、男女共同参画推進室の取組を紹介するポスター展示を行いました。高校生たちは、受験する学部や学科の男女比はどの程度であるか、興味深そうにポスターを見ていました。大学に入学後に受講できる共通教育講義「男女共同参画社会を考える」や、女性研究者ロールモデル集の紹介も行いました。当室のマスコットキャラクター「SANKAくん」は、高校生にも大人気でした。



妊娠体験ジャケットを装着しているところ



平成25年3月29日（金）、沖縄県の助産院にて、無事に男の子が誕生しました。「配偶者出産付添休暇」を利用して助産院に駆けつけましたが、残念ながら立ち会い出産には間に合いませんでした。しかし、私の代わりに3歳の娘が夜通し母親に付き添ってくれました。助産師さんの話では、血も恐れずに応援していた姿が頼もしかったそうです。



2日の範囲内で男性は「配偶者出産付添休暇」が利用できます！

無事出産も終わり安堵していたのですが、弟が生まれて戸惑いと不安から、3歳の娘の情緒が不安定になってしまいました。妻からも、こういう時こそ父親の存在が必要だと指摘され、出産時にきょうだいの世話をするための「育児参加休暇」を取得しました。

5日の範囲内で男性は「育児参加休暇」が利用できます！



忙しい時、「後でちゃんとフォローするから今は待つて！」と思うときもあります。しかし、子育ては待たなしの「生きもの」の世界、そのタイミングを逃すと当初想定していたよりも大きなコストを後々払うことになりかねません。今回は、育児参加休暇を使わせてもらい、娘との時間を大切にすることで、「赤ちゃんはママのおなかに帰ればいい！」と母親を困らせていた娘は、少し落ち着きを取り戻して弟をかわいがってくれるようになりました。

### しあわせの分担

忙しい時に仕事を休むことは、職場のことを考えると気が引けるところもあります。今回は「おたがいさま」と言ってくれる職場の同僚のおかげで、家族との貴重な時間を持つことができました。

私は育児に休暇を使わせてもらいましたが、この貴重な時間を親の介護に時間を使いたい人もいでしょうし、ボランティア活動やスポーツや趣味などでリフレッシュしたい人もいでしょう。

3日間連続して取得できるリフレッシュ休暇や、年間5日間使えるボランティア休暇もあります。このような特別休暇や有給休暇、そして各部局で設けているNO残業DAYなどを活用して、語学の勉強など新しいことに挑戦することも、仕事をするための活力につながるのではないのでしょうか。

誰かの仕事の埋め合わせを自分がすると考えてしまえば、「仕事の分担」はネガティブになるかもしれません。ひとりひとりが貴重な時間を持つのであれば、そのための仕事の協力は「しあわせの分担」として、ポジティブにとらえられるのではないかと思います。

